

「ドナネマブ」県内初投与

認知症新薬、70代患者に

中部脳リハビリ病院

社会医療法人厚生会(山田實紘理事長)が運営する美濃加茂市古井町下古井の中部脳リハビリテーション病院(篠田淳病院長)は31日、アルツハイマー型認知症新薬「ドナネマブ」について、県内在住の70代女性に県内初となる投与を開始したと発表した。アルツハイマー病の治療薬としては「レカネマブ」に次いで2例目で、患者にとって選択肢が広がることになる。(土屋健一)



アルツハイマー型認知症新薬「ドナネマブ(商品名ケサンラ)」(イーライリリー提供)

いずれも原因物質とされるタンパク質のアミロイド

β (ベータ)を脳から除去することで進行を抑える。アルツハイマー病による軽度認知症と、その前段階であるアルツハイマー病による軽度認知障害の患者が対象。ドナネマブは、4週間ごとに点滴で約1時間投与する。投与期間は原則18カ月だが、アミロイド β の除去が確認できれば最短12カ月で終了できる。

投与には「アミロイドPET-CT検査」でアミロイド β の脳内沈着を確認して適否を判断した上で、定期的にMRI検査をして副作用の有無の確認が必要。同病院は、医師や検査機器の条件がそろっており、昨年3月から始めたレカネマブの投与で32人の治療を行っている。患者の症状進行は抑制され、悪化が認められた症例はなく、脳浮腫や脳出血などの副作用も確認されていないという。

(69)は「ドナネマブは点滴を投与する間隔が4週間おきになり、期間も短くなるため負担が軽減される。選択肢が増えるのは患者と医療機関にとってメリットがある」と話す。

ドナネマブを投与した女性に軽度アルツハイマー型認知症と診断され、昨年12月11日にアミロイドPET検査をし、今月15日に点滴静脈注治療で投与した。脳神経外科脳検診認知症診療部門の熊谷守雄部長